

📅 11月8日 グランメッセ熊本

市町村国保運営協議会並びに国保主管課長等合同研修会

社会保障のこれから

平成30年11月8日(木)にグランメッセ熊本で熊本県国民健康保険運営協議会 会長連絡協議会主催のもと、「市町村国保運営協議会並びに国保主管課長等合同研修会」が開催され、市町村の国保運営協議会委員や国保事務担当職員など217人が参加した。

初めに、主催者を代表して江藤正行会長が参加者に対し、国保運営への日ごろの支援について感謝の言葉を述べるとともに、「国保の都道府県単位化という新しい国保制度のメリットを最大限生かすための課題について引き続き関係者間で議論を行い、厳しい国保財政が少しでも安定していくことを期待する」と挨拶した。

続いて、熊本学園大学教授の松本勝明氏を講師に迎え、「社会保障のこれから」と題して講演が行われた。

社会保障制度の在り方を考えるうえで重要な4つの要因である「人口をめぐる変化」、「家族をめぐる変化」、「雇用形態の変化」及び「疾病構造の変化・医療の進歩」について、これらが社会保障財政にどのように影響するのかを説明し、それに伴う社会保障改革の必要性を述べた。また、給付の質と効率性を高めていくためには保険者の役割が重要であるとして、日本と同様の給付形態や保険者編成であるドイツの事例を紹介した。

次に、熊本県国保・高齢者医療課国保財政運営班の植田康之主幹が「国保制度改革で知っておいてほしいこと」と題して、市町村国保財政の現状とこれからの国保運営の課題について説明し、将来的には県内市町村の保険料水準統一を目指していると述べた。

参加者は社会保障の今後の方向性や、国民・住民として考えなければならない視点などについて学び、実りある研修会となった。

